

ICTを用いた 国際学校間交流学習

東北学院大学教養学部
稲垣 忠

<http://www.ina-lab.net/>

学校間交流学習とは？

- 離れた学校と学校をインターネットで結び、子どもたちが交流しながら学ぶ
 - 文化間学習ネットワーク(三宅なほみら,84~)
 - 100校プロジェクト(94~)・こねっとプラン(96~)
 - Virtual Classroom(98~)・KIDLINK(90~)・iearn(88~)
- ポイントは4つ
 - 生活地域に根ざす
 - メディアの活用
 - 人間関係を組み替える
 - 協同による学びのデザイン

諸外国の動き

- UK: BBCとブリティッシュカウンシルによるWorld Class
- EU: コメニウスのeTwinningプロジェクト
- 米国: GlobalSchoolNet, iearnなど多様なプロジェクト
教育省が教師向けガイドを提供



コミュニケーション力

- 相手にわかりやすく伝える
- 分かるまで聞く・質問する
- 必要感のある英語活動の実現

異文化・自文化理解

- 生の交流相手からほんとうの異文化を学ぶ驚き体験
- 異文化を知る→自文化に気づく

情報活用

- ネットワークを介したコミュニケーション体験
- 情報社会の良さに触れる

学校間交流学習 で育つ力

主体的に学ぶ意欲

- 他地域・同年代に対する興味
- 相手がいるから伝えたい意欲

人とかかわる力

- 見知らぬ他者と関係づくり
- 異なる他者への共感・寛容さ

協同作業をする力

- 役割分担やチームワーク
- 活動のスケジュール、段取り

国際交流プロジェクト

- Japan Art Mile
 - 壁画制作と展示による平和メッセージを発信。2006年度から国際交流による共同制作。10年度は小中高校57グループが参加し20カ国の海外校と交流(3000名の生徒が参加)。
- つながーる
 - (財)国際文化フォーラムが運営する中高生対象のSNS。08年度から運用。日本語、英語、中国語、韓国語の4カ国語に対応し、国内から500名、海外からは1000名近い参加。
- Connecting Classrooms
 - ブリティッシュカウンシルの運営。イギリスの都市と2カ国の都市を結ぶ3カ国によるグループ。09年度に日本からは6地域37の中学校、英国は220校、東アジアで430校が参加。

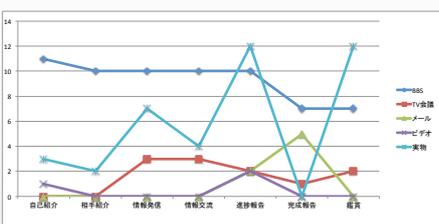


事例1 アートマイル

- 熊谷市立江南中学校・ T.O.Edukacja 中学(ポーランド)
- 中3選択英語(37時間)「私たちのタイムカプセル」
 - 4月:オリエンテーション・自己紹介
 - 5~9月:学校・地域紹介、ポーランド調べ
 - 10~11月:掲示板、テレビ会議で話し合う
 - 12月:制作→1月:鑑賞・交流
- 今の自分の生活をよく見つめることができた。テレビ会議やメールのやりとりを通して海外に友達ができる喜びと、海外の友達と共同で壁画を完成させた達成感と感動を味わうことができた(授業者:内田明美 教諭の振り返り)



進捗シートとツールの活用状況(08年度15ペアから)

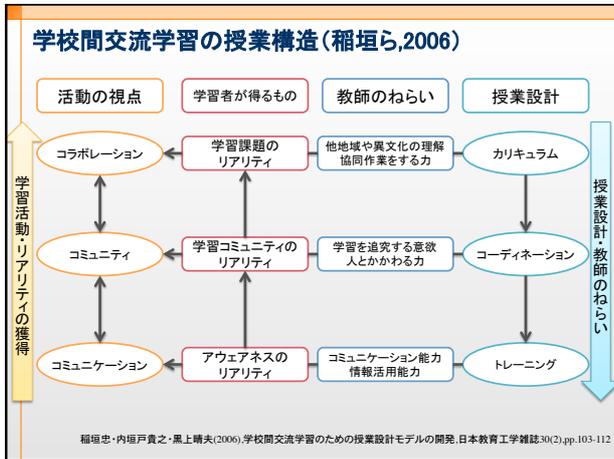


- 掲示板 →最大303件,平均120.8件の書きこみの多くは英語
- テレビ会議→6学級に留まり、顔合わせや交流の最後に
- 実物交換 → 自己紹介カード,ぬいぐるみ,土産品,クリスマスカード
- メール →教師間の連絡や児童生徒の作品を送付
- ビデオ →地域や学校での活動の様子を伝える

事例2:つながーる

- 鹿児島とカナダの交流
 - 鹿児島の中3生(英語)とカナダ・ブリティッシュコロンビア州10年生の日本語クラスが約4ヶ月間交流。ペアで自己紹介、学校生活などを英語と日本語でやりとり。
- フォト俳句
 - 岐阜の高校生によるコミュニティ。国内・海外のさまざまな学校と交流。





- ### 国際学校間交流のメリットと課題
- | | |
|--------------|--|
| メリ
ツ
ト | <ul style="list-style-type: none"> ● 強い動機づけとフィードバック <ul style="list-style-type: none"> ● 同年代の生徒どうしの学び合い ● フィードバック→伝わること・伝わらないことの実感 ● 共通言語として英語を使用する機会 ● ICTによる柔軟な学習環境 <ul style="list-style-type: none"> ● 実際に出かけずに交流を実現、対面交流の補完にも活用 ● テキスト、音声、ビデオなど生徒のスキルに応じた手段 ● 情報活用能力の育成 |
| 課
題 | <ul style="list-style-type: none"> ● 交流相手のコーディネート <ul style="list-style-type: none"> ● さまざまなNPO、国際交流団体の活用 ● 学習環境の準備 <ul style="list-style-type: none"> ● 交流ツールの確保、学校のネットワーク環境の対応 ● 教師のICT活用指導力の育成 ● カリキュラム上の位置づけ <ul style="list-style-type: none"> ● 英語科の学習事項を埋め込んだ短期間の交流プログラムの開発 ● 総合的な学習としての取り組み |